

農福連携 新ワイン完成

上山の多機能事業所
「シャルドネ」初醸造

販売計画、市に報告

上市市の多機能事業所「ふあーすと・すてつぷ」（安部智和施設長）が白ワイン用ブドウ「シャルドネ」を使い、初醸造したワインが完成した。関係者が9日、横戸長兵衛市長に報告した。来年の販売を目指す。社会福祉法人友愛会（山

形市、荒井与志久理事長）が運営する同事業所は、就労継続支援B型と放課後等デイサービスを併せ持つ。障害者の労働の場を確保しようとする「農福連携」に着目。上市市が進めるワインの郷プロジェクトに参加し、「ナイアガラ」を使ったワイン

などを生産している。

その一環で、県と市の支援を受けて2018年に同市小穴の園地にシャルドネの苗木100本を定植し、昨年9月に約160キを初収穫。60キを須藤ぶどう酒工場（南陽市）に委託し醸造。720キ以上入り25本を入手した。香りが良く、爽やかな辛口の白ワインで、アルコール度数は12%。

荒井理事長と安部施設長らが市役所を訪れ、横戸市長に「今年はブドウの品質を確保するため、細心の注意を払って栽培しながら300キの収穫を目指す。来年商品化できるよう準備を進めている」と報告。また、23年度をめどにした市内でのワイナリー設立への協力も要請した。（長瀬亮）



横戸長兵衛市長（左）にシャルドネを使った新ワインの完成を報告する荒井与志久理事長＝上市市役所